

生活力を育む家庭科学習

—体験的・実践的な活動の積み重ねを生活へつなげる—

1. 研究テーマ設定の理由

(1) 学校提案とかがわって

家庭科の学習は、人やもの、環境などのかかわりを大切にしながら、食べることや着ること、住まうこと等を扱う。対象は、身近な家庭生活や家族、学校生活や仲間、自然や社会などであり、子どもたちを取り巻く環境そのものである。

その子どもたちを取り巻く環境の多様化がすすんでいる。子どもが生活的に自立する力や、家族や家庭生活の意義や大切さを理解する力など、自分の生活を豊かでより充実したものにしようとするための基盤となる力や心情を育むことが大切である。これらの力を基にして、「将来にわたってより健康的で快適な生活を創ろうとする力や心情」を「生活力」とした。このような力を育み、生活への実践につなげていくこと、実生活への生かし方を身につけていくことが大きなねらいである。

家庭科学習では調理実習や製作実習に加えて観察や実験等、体験的な活動からの学びを大切にしている。このような活動を取り入れた学習は、子どもたちにとって楽しみなものであり、すすんで工夫を凝らしながら学んでいく姿をみとることができる。しかし、一方でその場限りの体験に終わってしまうことも過去の反省から否認しない。そこで、今年度は「体験的な活動」を計画したり、予想したり、実習したり、振り返ったりという学習活動を、より丁寧に、言葉にこだわりをもって行う。自分の思いや気付き、こだわりをグループやペアでの話し合ったりワークシートへ記入したり、時には繰り返し体験し直してみたりすることが、対象とどっぷりと関わりながら対話の中に吟味を生み出すことになるのではないかと考えるからである。

そして、吟味を積み重ねていくことは生活の意識化へとつながるだろうと思われる。無意識ですごしがちな家庭生活を、意識することで、自分に必要な課題を見つけ、生活の中に生かしていくことができるのである。

(2) 家庭科学習でめざす子ども像

家庭生活はだれもが行っていることである。分かりやすく簡単なことのように感じられるだろうし、便利なものがあふれているこの時代では、特に意識しなくても快適な生活を送ることが可能である。家庭科の学習をきっかけに、家庭生活への関心を高めながら、家族の一員としての自分、大切な家族の存在に気づかせ、大切にしよう、そのために自分ができることは何なのかを、考えさせたい。そして、将来にむけてよりよい生活者となっていく自分をイメージさせたい。以上のことから、家庭科学習でめざす子どもの姿を次のように考えた。

◇ 意欲的に取り組み、よりよいものを考える子ども

主体的に考え、行動し、工夫をこらしていくことができる子ども

◇ 自分の課題（問いや問題意識）にこだわって活動できる子ども

子どもたちの家庭生活は個々様々であり、それぞれの課題は異なるものである。自分にふさわしい課題を見つけ、自分自身や自分の家庭に必要なだと考えられる問題解決へと、こだわりをもって思考をめぐらす子ども

◇ 楽しんで生活に活用しようとする子ども

家族や家庭生活を大切に思い、家族の一員として生涯にわたって自らの生活にはたらきかけをしようとする子ども

(2) 家庭科学習における「学びの質の高まり」

家庭科学習における「学びの質の高まり」とは、“自分らしく生活に生かそうと工夫する姿への変容を認識できる学びの積み重ね”である。次のような3つの資質・能力を育成することが、「学びの質の高まり」につながると考える。

その一つ目は、家庭生活を構成しているものや生活行為・活動にはそれぞれ意味があり、自分の家族や家庭生活の大切さに気づくということである。

二つ目は、日常生活に必要な基礎的な知識や技能を習得することである。生活の技能は、健康的な生活を営むためには必要なものであり、これらの知識や技能を、目的や状況に応じて活用しようとする際のベースとなる。そのため、授業の中だけでなく、日頃からのほたらきかけが大切になってくると思われる。

三つ目は、人とのかかわりを考えながら日々の生活をよりよくしようとする実践的な態度である。状況を判断し、相手意識をもって実践できる態度を育てていきたい。

2. 研究の展望

研究テーマと関わって、子どもの実態をふまえながら「学びの質の高まり」に必要な資質や能力を育成するための手だてとして、サブテーマ“体験的な活動の積み重ねを生活の実践につなげる”をポイントにする。そして、題材、学習活動を設定し、正しい認識力・判断力を育てていくよう、子どもへの日々のほたらきかけを行いたい。

(1) 題材設定において

- ①適切に体験活動や実習を取り入れ、「おもしろそう」「やってみたい」と、子どもたちの興味・関心を高められるよう工夫する。
- ②五感を通した直接体験をできるかぎり取り入れながら、実感を伴った具体的な学びを展開する。
- ③ペア実習（1人実習）を取り入れ、技能の定着をはかる。
- ④資料やグラフを利用しながら、実際の数値やその変化を示したり、実験を取り入れたりと、根拠のある科学的な見方を大切にし、自分の生活への必要性・重要性を感じられるような学習を展開する。
- ⑤現在の社会生活の中に起きている様々な問題、例えば環境問題と関連づけたり意識付けたりすることにより、身近な問題として実感させられるよう工夫する。

(2) 日常生活の中での取り組み

保護者の協力も得ながら、家族の一員としての自分に、意識を持たせるため、自分たちができることとして、「お弁当箱洗い」「テーブルクロスやマスクの洗濯」等を取りあげ、実践していきたい。外にも週末や長期休み中を利用し、必ず何かにチャレンジしていきたい。やってみて始めてわかることや再認識できることも多く、子どもの意識の変容や家庭生活を見つめ直すよい機会になるだろうと考えている。

3. 研究の評価

体験的活動の内容により、グループでの活動、ペアでの活動を取り入れ、自己評価だけでなく相互評価を取り入れていく。互いに見合うことにより、自分のことだけでなく、仲間のことも含め、今まで気付かなかったことに気付いたり、活動への意識や意欲が高まったりすると思われるからである。また、題材の終わりには自己の活動振り返りシートを活用していく。教師が子どもの実態を把握していくと共に、子ども自身が自分の変容や成長を実感し、自分の生活への実践につなげていくためのきっかけとしていきたい。